

KAYABA RALLY TEAM

2026 ALL JAPAN RALLY CHAMPIONSHIP REPORT #4

2026/6/19~21 愛媛県上浮穴郡

Rd.4

久万高原ラリー



KYB
RALLY TEAM

スペシャルステージ

SS数: 8
路面: ターマック

総走行距離: 303.64 km
SS距離: 110.22 km

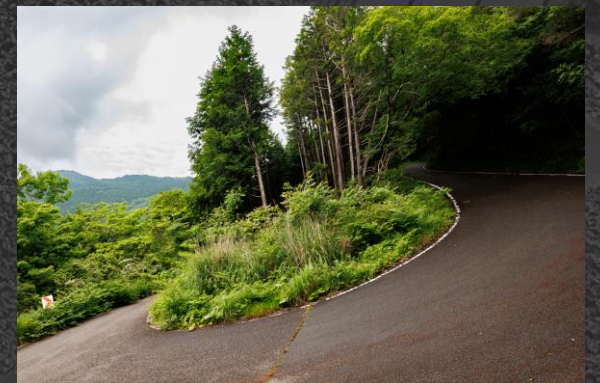
LEG1 6/20(土) 天候: 晴れのち雨 / 路面: ハーフウェット

SS1	大谷 I	13.51 km
SS2	大川嶺 I SERVICE A (30 min)	13.80 km
SS3	大谷 II	13.51 km
SS4	大川嶺 II SERVICE B (45 min)	13.80 km

LEG2 6/21(日) 天候: 雨のち晴れ / 路面: ハーフウェット

	SERVICE C (15 min)	
SS5	大川嶺リバース I	13.80 km
SS6	大谷リバース I SERVICE D (30 min)	14.00 km
SS7	大川嶺リバース II	13.80 km
SS8	大谷リバース II	14.00 km

SS1/3	大谷	2025年と同一レイアウト。高速区間と低速区間が織り交ざり、複雑な形状の複合コーナーが多い。薄暗い森林区間が長く苔も目立つステージ。一度雨が降るとなかなか乾かず、滑りやすい路面への対応力が重要。
SS2/4	大川嶺	2024年と同一レイアウト。四国カルストの北端に位置する久万高原の名物ステージ。標高1000mのスタート地点から1400mの頂上まで一気に駆け上がり再度下っていく。下り区間が長いためブレーキに厳しく、霧も出やすい。
SS5/7	大川峰リバース	SS2/4の逆走。LEG1に走行した林道を再度走行するため、昨年まではインカット走行によって前日に掻き出された泥がコースを難しくしていたが、今年はインカットを防ぐポールが要所に立てられ、比較的路面が綺麗な状態となった。
SS6/8	大谷リバース	SS1/3の逆走。難しい複合コーナーは逆走でも変わらず、走行ラインやブレーキポイントの見極めが重要。



全体図



チーム体制



監督: 榎本 一憲
 ドライバー: 石黒 一暢
 コ・ドライバー: 穴井 謙志郎
 メカニック: 増谷 大志 / 松田 幸也 / 三國 大河
 エンジニア: 古川 優太
 マネージャー: 池戸 敬也
 チームアドバイザー: 奴田原 文雄 (NUTAHARA Rally Team)
 メカニックアドバイザー: 山田 淳一 (RUTS RACING)

リザルト

クラス4位 / 総合16位 (JN-1クラス7台 / 総合44台 参加)

LEG1: クラス4位/総合19位 LEG2: クラス5位/総合17位

クラス	No.	Dr.	Co-Dr.	参加車両名	車両型式	車両区分	LEG 1					LEG 2					総合計	クラス順位	総合順位		
							SS1	SS2	SS3	SS4	Penalty	合計	SS7	SS8	SS9	SS10				Penalty	合計
JN-1	1	勝田 龍彦	保井 隆宏	ラックルーキー-DLGRヤリスRally2	MXPA12	FIA	10:45.7	11:27.4	10:39.4	11:22.6		44:15.1	11:12.4	10:44.5	11:12.0	10:52.7		44:01.6	1:28:16.7	1	1
JN-1	3	鎌田 卓麻	松本 優一	Castrol TEIN DL ファビア	ABCUFX11	FIA	10:41.5	11:17.8	10:46.5	11:33.1		44:18.9	11:26.7	10:48.2	11:22.7	11:02.1		44:39.7	1:28:58.6	2	2
JN-1	4	福永 修	齊田 美早子	スミロン焼肉ふじCTE555DLファビア	ABDKZX11	FIA	10:50.0	11:37.0	10:33.2	11:39.1		44:39.3	11:50.6	11:08.9	11:37.3	11:12.2		45:49.0	1:30:28.3	3	3
JN-3	8	山田 啓介	藤井 俊樹	FITEASYソミック石川DLGRヤリス	GXPA16	RJ	11:01.4	11:53.9	11:04.3	11:55.8		45:55.4	11:53.8	11:24.0	11:47.1	11:14.3		46:19.2	1:32:14.6	1	4
JN-3	13	貝原 聖也	西崎 佳代子	ADS多賀製作所K1カヤバGRヤリスDL	GXPA16	RJ	11:31.7	12:16.5	11:23.7	12:18.5		47:30.4	12:13.4	11:39.9	12:00.5	11:45.6		47:39.4	1:35:09.8	2	5
JN-3	10	大倉 聡	豊田 耕司	AISIN GR Yaris DAT	GXPA16	RJ	11:34.9	12:13.7	11:33.5	12:13.6		47:35.7	12:23.5	11:47.9	12:04.2	11:39.4		47:55.0	1:35:30.7	3	6
JN-3	11	徳尾 慶太郎	石田 一輝	DLクスコitzzフォルテックGRヤリス	GXPA16	RJ	11:49.2	12:09.2	11:27.4	12:22.6		47:48.4	12:26.3	11:45.9	12:08.1	11:40.9		48:01.2	1:35:49.6	4	7
JN-3 (MCC)	17	最上 佳樹	小藤 桂一	FIT-EASYZEALGRYARIS	GXPA16	RJ	11:24.2	12:12.0	11:16.3	12:23.0	0:10	47:25.5	12:31.5	11:48.3	12:20.8	11:52.9		48:33.5	1:35:59.0	5	8
JN-3 (MCC)	16	米林 慶晃	菅野 総一郎	KTMS NRS GRヤリス	GXPA16	RJ	11:31.6	12:22.6	11:28.4	12:35.3		47:57.9	12:33.4	11:49.0	12:20.8	12:00.7		48:43.9	1:36:41.8	6	9
JN-3 (MCC)	15	奥井 優介	藤田 めぐみ	クスコGRG水戸けやき台DL・WMヤリス	GXPA16	RJ	11:38.1	12:20.8	11:47.4	12:40.3		48:26.6	12:31.5	11:49.5	12:21.8	11:57.5		48:40.3	1:37:06.9	7	10
JN-3	12	内藤 学武	大高 徹也	YH TEIN Motys GRヤリス	GXPA16	RJ	11:47.0	12:22.8	11:41.7	12:32.7		48:24.2	12:40.8	12:05.1	12:19.6	11:59.9		49:05.4	1:37:29.6	8	11
JN-4	25	山本 悠太	葛山 順平	Sammy愛知KoneYHGR86	ZN8	RJ	11:30.7	12:28.6	11:41.2	12:47.2		48:27.7	12:52.0	12:02.6	12:22.2	11:46.2		49:03.0	1:37:30.7	1	12
JN-4	27	山口 清司	丸山 晃助	エナベタルADVAN久興GR86	ZN8	RJ	11:43.1	12:26.5	11:43.3	12:46.6		48:39.5	12:43.0	11:59.3	12:17.9	11:51.7		48:51.9	1:37:31.4	2	13
JN-3 (MCC)	21	平川 真子	富本 諒	TGR-WRJ GR YARIS DAT	GXPA16	RJ	11:45.8	12:51.3	11:51.5	12:45.3		49:13.9	12:33.7	11:57.0	12:36.4	11:47.5		48:54.6	1:38:08.5	9	14
JN-4	28	曾根 崇仁	小川 由起	PMU☆DL☆INGING☆GR86	ZN8	RJ	11:43.6	12:25.3	11:45.4	12:43.5		48:37.8	12:57.2	12:02.1	12:36.2	11:57.7		49:33.2	1:38:11.0	3	15
JN-1	6	石黒 一輔	穴井 謙志郎	カヤバ YH GRヤリス	GXPA16	JP4	12:03.9	12:31.8	11:53.2	12:40.0		49:08.9	12:50.9	12:00.4	12:22.3	12:02.9		49:16.5	1:38:25.4	4	16

LEG 1

SS1 大谷 I 13.51 km

走行タイム 12:03.9 ステージ順位: クラス 7位 / 総合 25位 合計タイム順位: クラス 7位 / 総合 25位

全44台、JN-1クラスは7台で争われた。未明に激しく振った雨により、各チームがタイヤ選択を迷う状況。大谷は日陰が多く、過去参戦時も湿りが残りやすかったことからカヤバはウェットタイヤを選択。JN-1では路面の水を逃がすタイヤの溝を追加で掘ることが可能で、標準よりも溝を増やした状態でスタート。予想通り路面は湿ってはいたものの、想定よりも水が少なく、タイヤの性能を十分に活かし切れなかった。



SS2 大川嶺 I 13.80 km

走行タイム 12:31.8 ステージ順位: クラス 6位 / 総合 18位 合計タイム順位: クラス 6位 / 総合 22位

前半はウェット路面、後半はほぼドライ路面。昨年と異なり、コーナー内側をショートカットできた箇所には走行ラインを規制するポールが設置され、路肩の砂利がコース内に掻き出される状況は抑えられていた。車速が高くなる区間に合わせてダンパーセッティングを変更し、乗りやすさが向上。前半はハイペースで進めるも、後半の下りセクションで車速を落とすすぎ、タイムは伸びなかった。



SERVICE (30min)

SS3 大谷 II 13.51 km

走行タイム 11:53.2 ステージ順位: クラス 5位 / 総合 23位 合計タイム順位: クラス 4位 / 総合 21位

午後から再び雨が降る予報だったため、サービス作業では減衰力の微修正に留め、ウェット仕様を継続してSS3に臨んだ。予報通りスタート前に雨脚が強まり、一度乾いた路面は再びウェット路面へと戻った。JN-1クラスで2台のリタイヤが発生し、改めて完走の意識を強めて走行。連続ワイパーを稼働する悪天候の中でもペースを上げ、SS1より10秒短縮した。



SS4 大川嶺 II 13.80 km

走行タイム 12:40.0 ステージ順位: クラス 4位 / 総合 13位 合計タイム順位: クラス 4位 / 総合 19位

雨は断続的に降り続き、濡れた難しい路面が続いた。走行ラインを規制するポールにより、2ループ目ながら泥や砂利が例年より少ない状況だった。一方、約30m先の視界も奪われる濃い霧が発生した区間では、探りながらの走行となってしまう。コンディション悪化の影響もあり1本目に対してタイムは落としたものの、大きなミスのない安定した走行でLEG1をクラス4位/総合19位で終えた。



LEG 2

SS5 大川嶺リバーズ I 13.80 km

走行タイム 12:50.9 ステージ順位: クラス 6位 / 総合 20位 合計タイム順位: クラス 4位 / 総合 19位

夜間に激しい雨が降り、朝以降は曇りが続く。路面状況の予想が引き続き難しいLEG2では、スタート直前までタイヤ選択に悩み、ドライタイヤとウェットタイヤを前後左右で交差して装着するクロス履きの戦略を取った。林道の日陰区間では戦略がはまり感触良く走行できたものの、日当たりの良い中盤以降は乾いている区間が目立ち、終盤は車両仕様と合わず苦しい展開となった。



SS6 大谷リバーズ I 14.00km

走行タイム 12:00.4 ステージ順位：クラス 5位 / 総合 15位 合計タイム順位：クラス 4位 / 総合 18位

路面は乾きつつあったが、日陰が多く鬱蒼とした大谷ステージにはまだ湿り気が多く残っていると予想。スペアとして積んでいた2本のウェットタイヤを装着し、4輪すべてウェットタイヤでスタートした。日陰と日向の路面状況に差があり、安全マージンを取りすぎている部分もあったが、複合コーナーの処理も上手くまとめられ、走りのリズムは1日目よりも良化した。



SERVICE (30min)

SS7 大川嶺リバーズ II 13.80km

走行タイム 12:22.3 ステージ順位：クラス 5位 / 総合 17位 合計タイム順位：クラス 4位 / 総合 16位

SS7/8はほぼ乾き切っている予想し、サービス作業で車両セッティングを変更。タイヤも4本ドライタイヤを装着して臨んだ。高低差の大きいステージであるため、特にブレーキに意識を向け、リズム感を大事に走行。セッティング変更による走行フィーリングは良くなったものの、タイムは今一つ伸びず、まだ攻め切る余地が十分に残った。



SS8 大谷リバーズ II 14.00km

走行タイム 12:02.9 ステージ順位：クラス 5位 / 総合 21位 合計タイム順位：クラス 4位 / 総合 16位

ほぼドライ路面となった最終の大谷ステージ。最後まで丁寧な操作を心掛けたものの、終盤でシフトミスが数回発生し、タイムロスとなった。それでも車両には大きなダメージを負うことなく最後まで走り切ることができた。走行ペースには引き続き課題が残るものの、参加台数の少なさと他車のトラブルも重なり、結果的に過去最高順位となるクラス4位を達成した。



PHOTO GALLERY



DRIVER 石黒 一暢 - Ishiguro Motonobu -



久万高原ラリーは雨天が多く、霧による視界不良や、苔・泥によって滑りやすくなる路面など、チャレンジングなラリーとして知られています。今年は競技期間の2日間とも雨が降ったり止んだりする天候となり、タイヤ選択に非常に悩まされる展開となりました。ラリー前には事前テストを入念に実施し、扱いやすさを優先して全体的にしなやかなサスペンションセッティングとしました。序盤は思うようにペースを上げることができませんでしたが、SSごとに運転操作やセッティングを確認・調整しながら走行を重ねた結果、徐々にペースを改善することができました。最終的には、クラス4位で完走することができました。速さの面ではまだ課題が残りますが、難しいコンディションの中で最後まで走り切り、車両に大きなダメージを負わせることなくフィニッシュできた点は、今後に繋がる良い結果だったと感じています。次戦は、北海道蘭越町で開催されるラリーカムイです。ここから北海道でのグラベル2連戦となりますので、気持ちを切り替え、しっかりと事前準備に取り組んでいきます。引き続き応援のほど、よろしくお願いいたします。

Co-DRIVER 穴井 謙志郎 - Anai Kenshiro -



去年は10月、一昨年は4月に開催された久万高原ラリーですが、今年は6月開催となりました。天候や気温など環境の変化を警戒していましたが、今年も例年同様、雨と霧に悩まされるラリーとなりました。久万高原ラリーはここ数年、使用する林道が2本のみで、それぞれを順走・逆走で走行する点も特徴的です。2日目も同じ林道を走行するため、1日目の走行で変化した路面状況にどれだけ対応できるかが鍵となるラリーでした。今年は、路面汚れの主な原因となるインカット（コーナー内側をショートカットする走法）を防止する措置が取られ、2日目も安定した路面コンディションで走行できました。少しずつマージンを削り、昨年までのような攻めの走りを取り戻したい思いはありますが、ラリーは完走してこそその競技であり、リタイアしてしまえばすべてが無に帰してしまいます。そのバランスに悩むラリーが続いていますが、今回は完走を果たしたことで、結果的にクラス4位という過去最高順位でフィニッシュできました。万全の状態に車両を整えてくれたチームの力だと思います。今後も速さだけでなく確実性を高めながら、チームとしてさらに良い結果を目指します。

MECHANIC 三國 大河 - Mikuni Taiga -



この時期の久万高原ラリーはコンディション変化の判断が難しく、今回もタイヤ選択や仕様変更にも悩まされました。特にLEG1午前のループでは、ドライタイヤでの出走も検討しましたが、午後の雨予報や翌日の選択肢もチームで考慮し、最小限のカットを加えたウェットタイヤを選択しました。その結果、大きなリスクを負うことなくラリーを進めることができました。久万高原の特徴とも言えるサービスパーク横のSS観戦エリアでは、サービス隊も走行を見ることができ、ステージの過酷さを改めて認識しました。普段なかなか見ることのできない貴重な機会であり、メカニックにとっても有難いラリーであると感じています。一方でサービスでは、クルーへの意思確認や整備内容についてチーム内で認識のズレがあり、作業の進め方に課題が残りました。チームメンバーの入れ替わりに伴う難しさもありますが、今一度チームで協議し、次戦では必ず改善してまいります。そのような中でも、過去最高のクラス4位で車両を無事に運んでくれたクルーに感謝するとともに、より快適に、安全に、不安なく攻めていける車両づくりを目指し、今後も精進してまいります。

NEXT RALLY

7/10~12 北海道蘭越町
2026 ARK ラリー・カムイ

Special Thanks



カヤバラリーチームの活動は
各種SNSにて発信しています。



KYB
Our Precision, Your Advantage
カヤバ株式会社